

松江市街地における河川の概要及び現状と課題

議事2

An aerial photograph of a city, likely in Japan, showing a dense urban area with a river winding through it. The river is visible on the right side, curving around a large green park area. The city is characterized by a grid-like street pattern and numerous buildings. There are several large green spaces and parks scattered throughout the urban landscape. The overall scene is a mix of urban development and natural greenery.

流域と河川の概要

朝酌川水系

1級河川

幹川流路延長:9.4km

流域面積:37.3km²

主な支川:

- 松江堀川

(北田川、四十間堀川、京橋川、北堀川、城山西堀川、上追子川、準用河川 田町川、米子川、城山内堀川の総称)

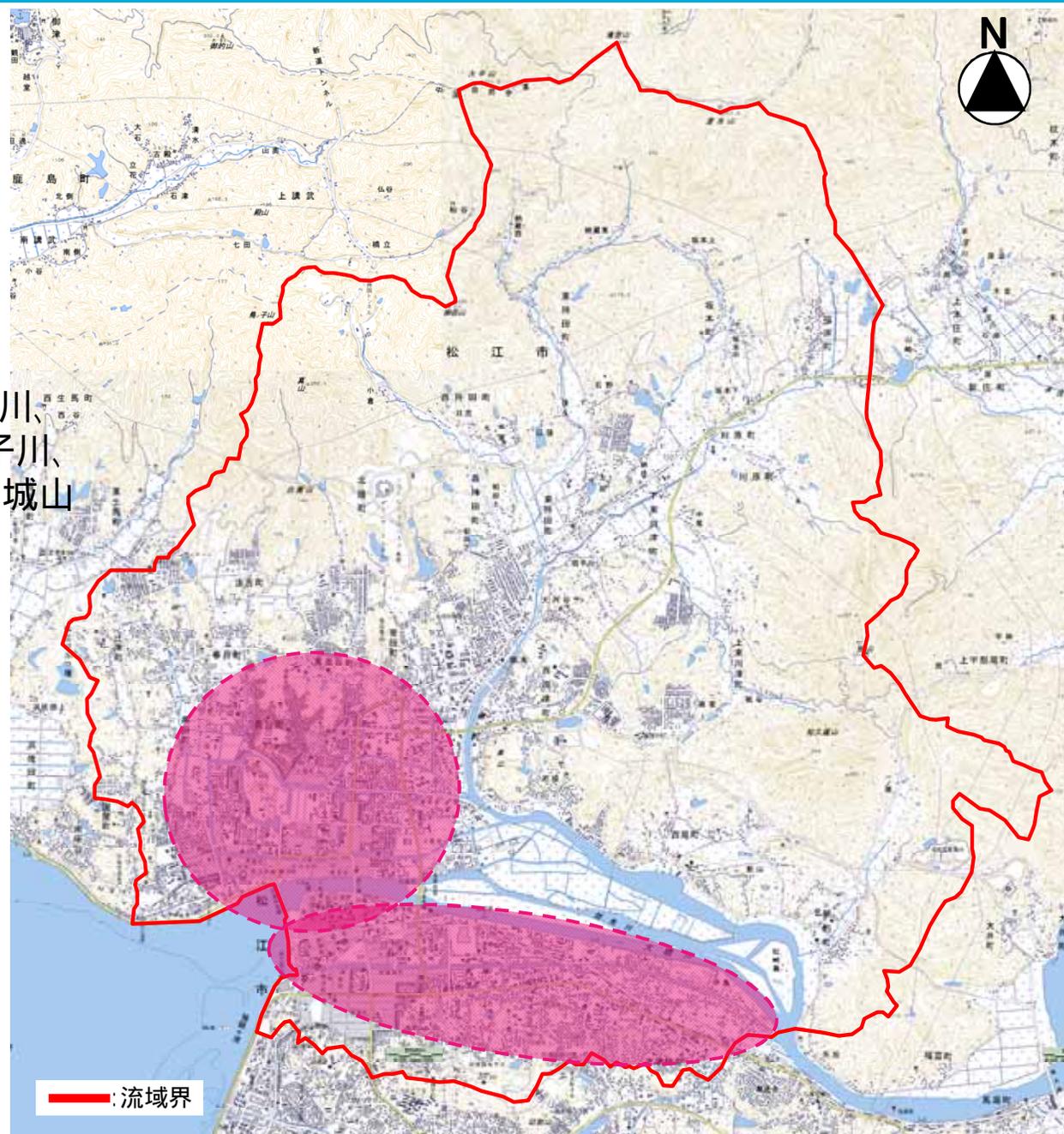
- 中川

天神川水系

1級河川

幹線流路延長:4.3km

流域面積:4.3km²



主要河川



(凡例) **紫文字**:国管理河川 **黒文字**:県管理河川 **緑文字**:市管理河川

自然環境

哺乳類

・ネズミ類、タヌキ、キツネ

鳥類

・カワセミ: 川沿いや山地
・ミサゴ: 海岸や湖沼

爬虫類・両生類

・クサガメ、アオダイショウ

昆虫類

・キイロサナエ、メスグロヒョウモン、ホタル

魚類

・ミナミアカヒレタビラ、メダカ、スズキ、ボラ

みんなで守る郷土の自然

・法吉ミスジカワニナ生息地



ミサゴ



カワセミ



キイロサナエ



メスグロヒョウモン



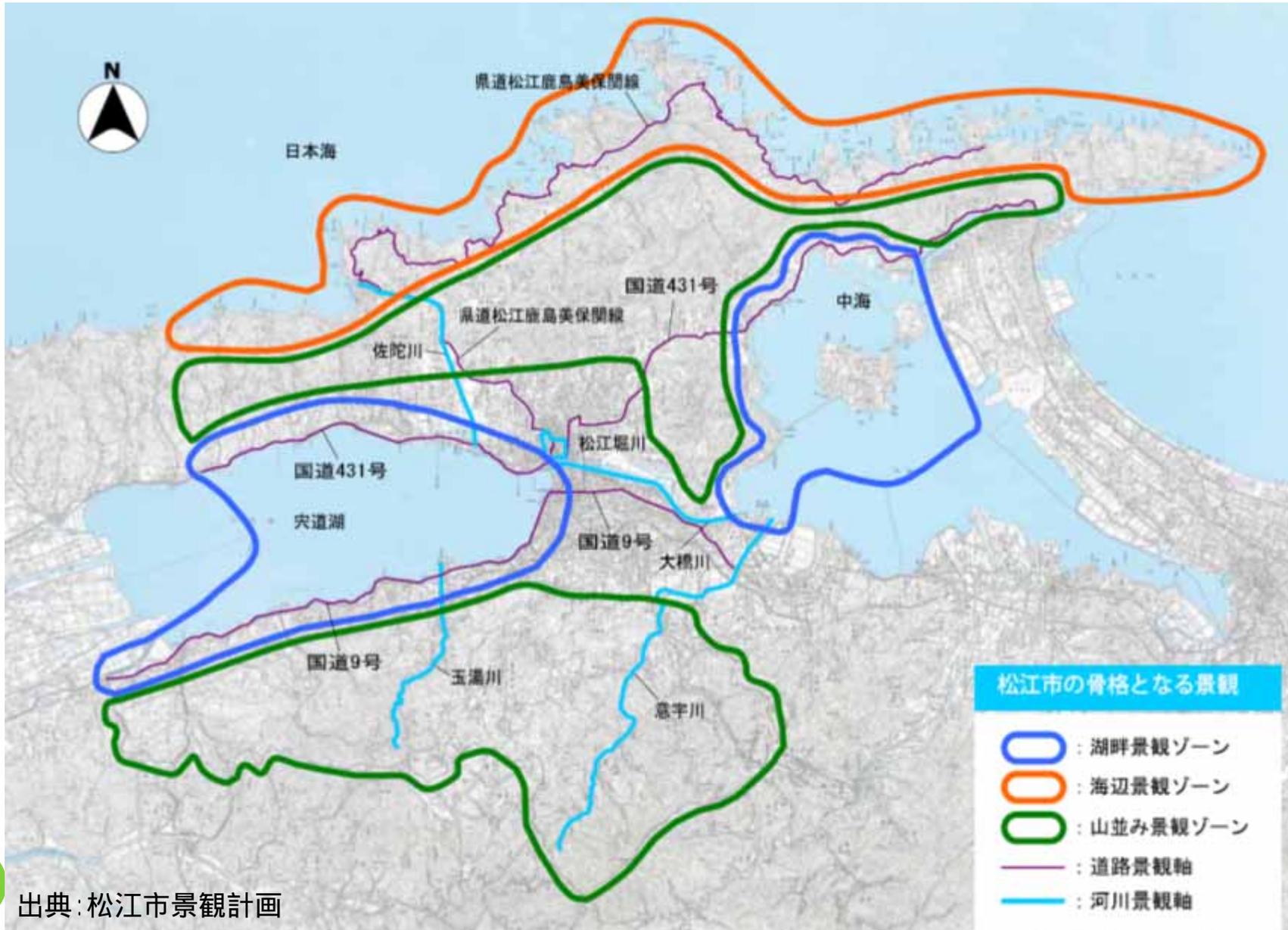
ミナミアカヒレタビラ



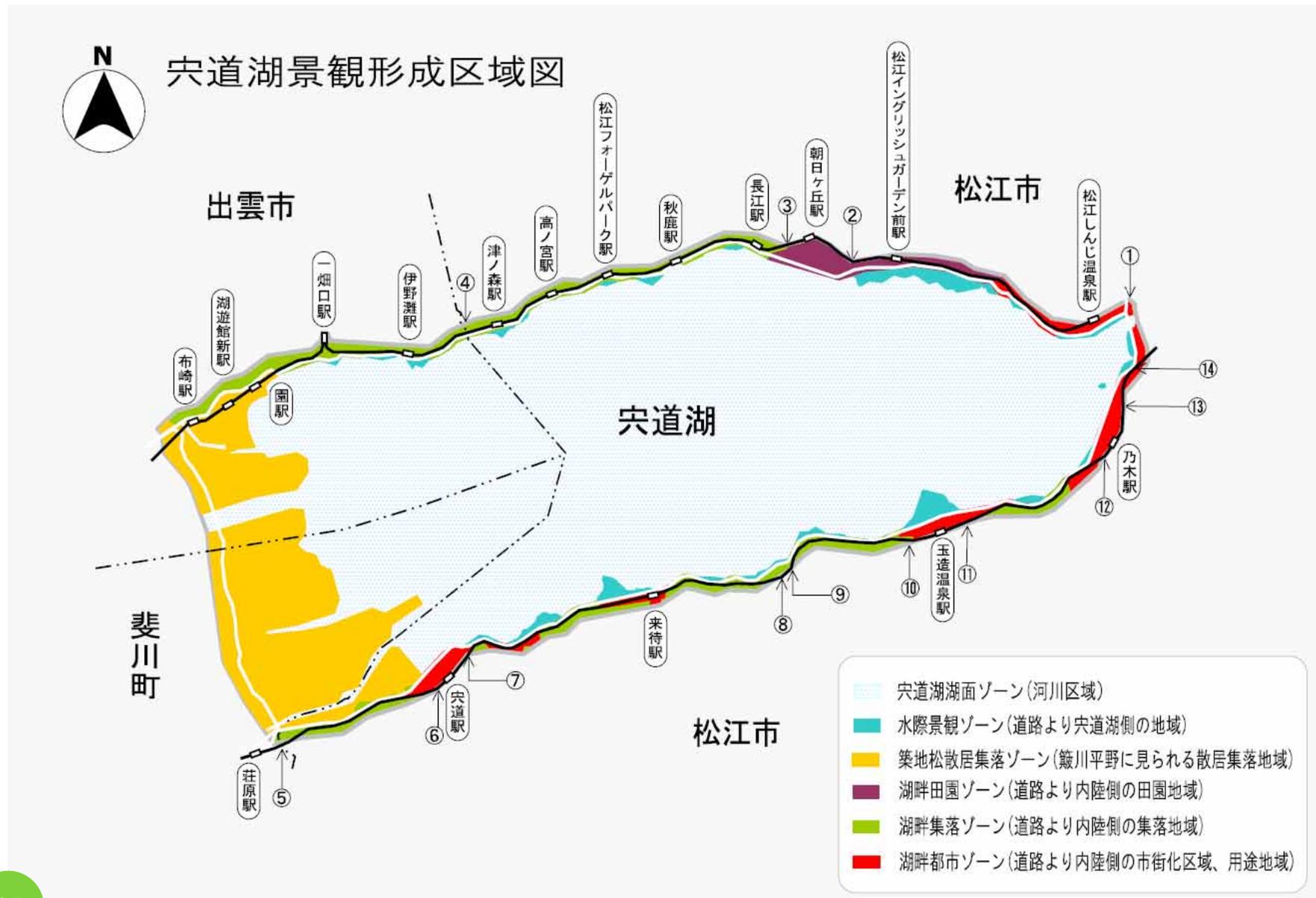
メダカ

景観(1)

松江市の骨格となる景観(3つの景観ゾーン・2つの景観軸)

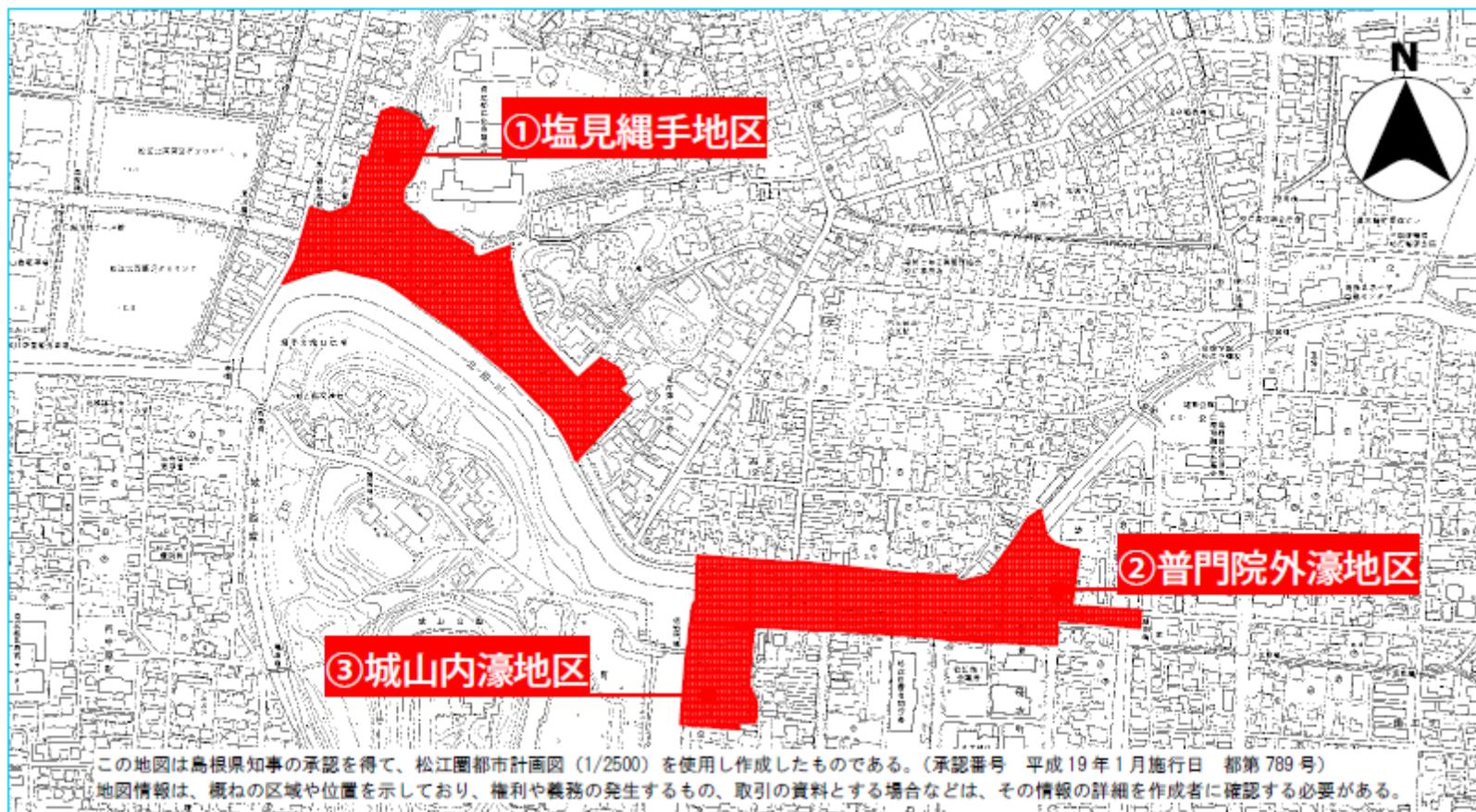


景観(2)



景観(3)

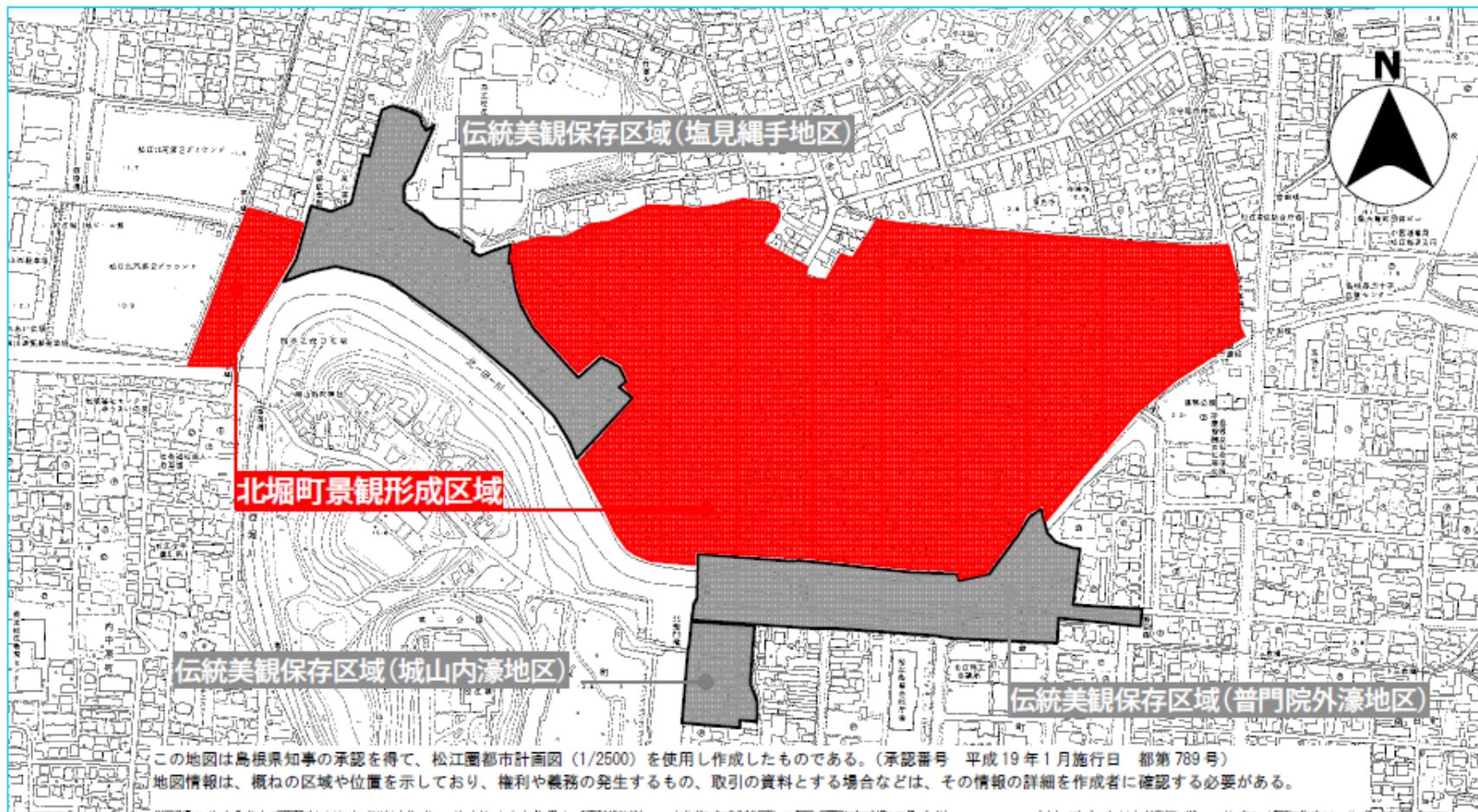
伝統美観保存区域



出典:松江市景観計画

景観(4)

北堀町景観形成区域



出典:松江市景観計画

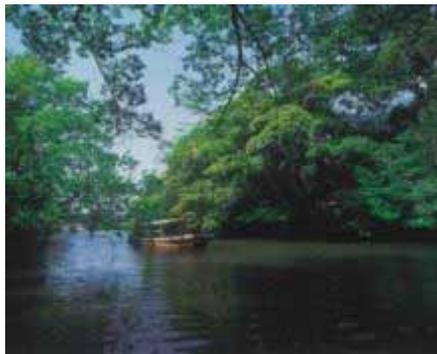
観光



堀川遊覧船(北田川)



塩見縄手



堀川遊覧船(城山西堀川)



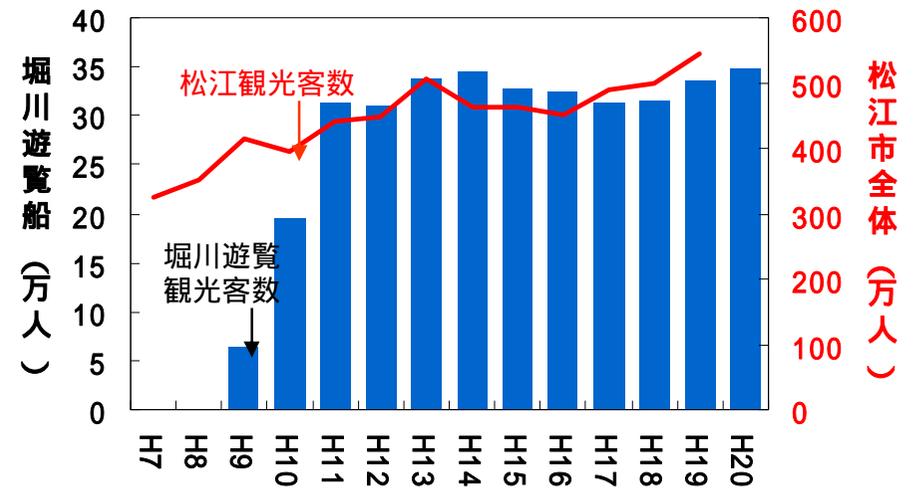
京橋川



カラコロ工房とレイクライン



松江城



歴史(1)

斐伊川の沖積地に拓けた松江市は、旧くは葦原が一面に広がる寒村だったが、堀尾吉晴が1611年(慶長16年)、広瀬富田城からこの地に城を移し、堀尾家三代、京極家一代、松平家十代にわたり十八万六千石の城下町として発展した。

松江堀川は、松江城築城の際に内堀・外堀として開削された人口水路であり、現在の一級河川 北田川、四十間堀川、京橋川、北堀川、城山西堀川、上追子川、準用河川 田町川、米子川、城山内堀川の9河川を総称して「松江堀川」と言っている。

松江城下では洪水が度々発生し、火災と共に治水対策が重要であった。このため、放水路として天神川、佐陀川が開削された。

江戸時代の堀川は、城や城下町を守る以外に物資の輸送や人の往来、漁場としても利用されていたことから松江藩と町人はきれいな川とするよう努力した。

しかし、明治期に入り鉄道が開通すると舟運が衰え、次第に道路拡幅を中心として松江堀川の埋立が進み、川幅の減少や水路の消失が進んできた。さらには昭和以後、近代化に伴う市民生活様式の変化、都市化の進展、潮止堰の設置により閉鎖水域化し、河川の水質汚濁が進行し、底泥からメタンガス・硫化水素が発生し、酸欠によりフナ等の魚の斃死が発生するようになってきた。当時の最も水質の悪いところでは、BOD値が60mg/l以上にもなった。

昭和47年頃から浄化事業が始まり、昭和51年から宍道湖水の堀川への一部導水が開始された。昭和63年度からの「ふるさとの川モデル事業」により洪水対策の河川改修と合わせて、水辺を活かした環境づくりを県と市が一体となって整備を進めてきた。平成6年には松江堀川の豊かな水環境を実現するため、地域住民や各種団体並びに行政機関が一体となった「水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス21)」を策定し、平成8年からは宍道湖水を全河川へ通年導水するようになった。

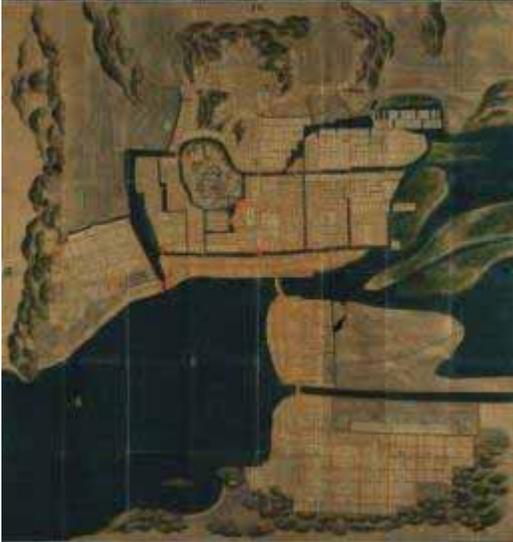
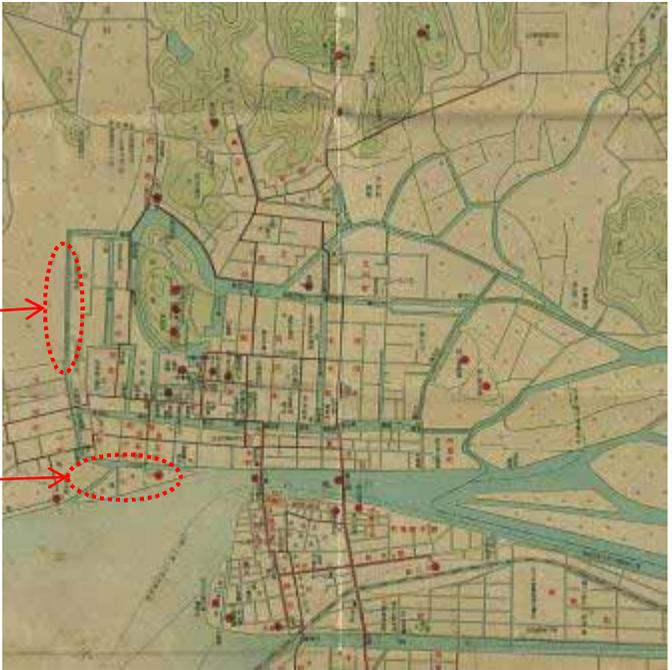
平成9年には堀川遊覧船が就航し、年間約30万人の観光客でにぎわっている。

歴史(2)

松江堀川の歴史

松江堀川の機能		年代	事項	備考
江戸	城の堀	1611年(慶長16年)	松江城竣工	松平氏が入府(1638)
		1686年(貞享3年)	藩内の川堤に桑、茶、漆等の増殖を図る	
		1689年(元禄2年)	四十間堀と宍道湖を繋ぎ通船を便利にする	
		1773年(安永2年)	城下の諸橋中板橋を土橋に改め、諸濠を浚渫して舟行を容易にする	
明治	生活用水	1876年(明治9年)	西廻航路が汽船で結ばれるなど汽船による舟運が盛んとなる	松江市発足(1889) ヘルンを招聘(1890)
		1909年(明治42年)	松江～宍道間に鉄道開通(以後、舟運が衰えるようになる)	
大正	生活用水	1918年(大正7年)	市街地の主要部分に上水道が普及(以後、松江堀川での生活用水利用が減少する) 大正～昭和にかけて大橋川を浚渫したため松江堀川に塩水が流入するようになる また、旧制松江中学漕艇部の艇庫が汐見縄手道にあり、米子川を通り大橋川で練習していた	末次埋立(1915) 松江城公園化(1927)
		1936年(昭和11年)	松江堀川周辺の水田に塩害が発生 (以後、大橋川との間に堰が設けられ、松江堀川の水質が悪化していく)	
昭和	道路用地	1965年(昭和40年)	この頃、京橋川の埋立についての議論がおこる	
		1970年(昭和45年)	堀川城下の第1回水の入替えテスト実施	
		1974年(昭和49年)	松江伝統美観保存条例に基づき汐見縄手道を整備	
		1975年(昭和50年)	松江伝統美観保存条例に基づき普門院周辺を整備	
		1976年(昭和51年)	湖水を導入し堀川の浄化が始まる(京橋川のみ)	
		1980年(昭和55年)	「堀川を見直そう」のキャンペーンが始まり、「よみがえれ堀川の会」が結成される	
平成	観光資源	1988年(昭和63年)	堀川が「ふるさとの川モデル河川」に指定される	
		1990年(平成2年)	ふるさとの川モデル事業整備計画が策定される	
		1993年(平成5年)	地域住民や各種団体、行政機関により「松江堀川浄化対策地域協議会」を発足する	
		1994年(平成6年)	「松江堀川水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス21)」を策定	
		1995年(平成7年)	全河川への湖水導水開始(夏期のみ)	
		1996年(平成8年)	全河川への通年導水開始	
		1997年(平成9年)	松江堀川遊覧船就航	
		2000年(平成12年)	「松江堀川第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス)」を策定	

歴史(3)

延享年間(1744 ~ 1748)	明治12年(1879)	昭和11年(1936)
		
<ul style="list-style-type: none">• 四十間堀川(外堀)の幅が非常に広い	<ul style="list-style-type: none">• 江戸時代とあまり変化は見られない	<ul style="list-style-type: none">• 四十間堀川が埋め立てられている• 四十間堀川河口部に埋立地造成(現末次公園付近)

松江市は、古代出雲の中心地として古くから開けており、有形無形の文化財が数多く存在している。

• ホーランエンヤ

360年の歴史を有す松江城山稻荷神社式年神幸祭の通称で、12年に一度卯年5月に行われ、渡御祭と還御祭では、五大地と呼ばれる地域の人々が色とりどりに装飾した櫓伝馬船に乗り組み、松江市指定無形民俗文化財「櫓伝馬踊り」を勇壮に披露する。



ホーランエンヤ

• 鑿行列(どうぎょうれつ)

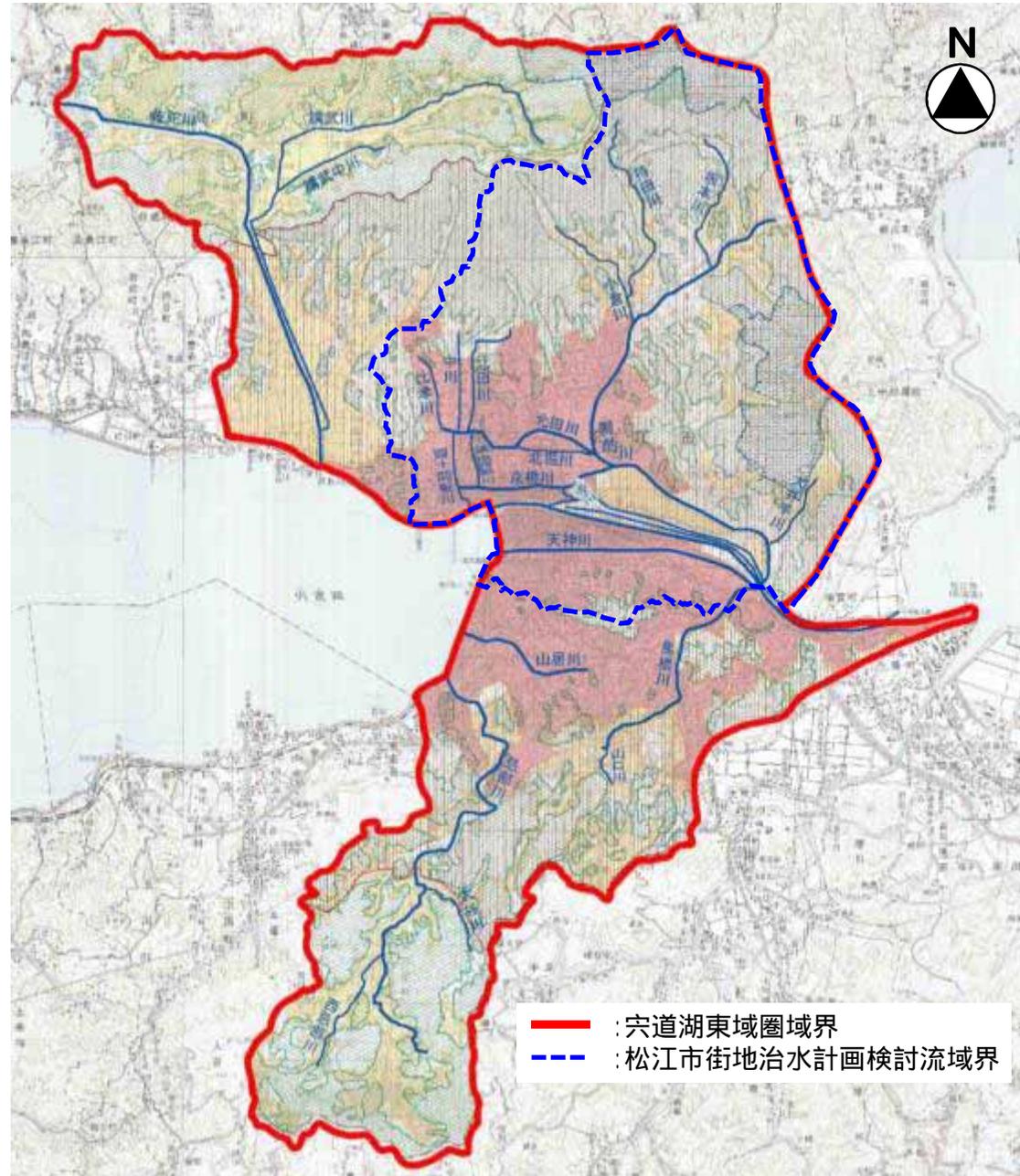
元来、正月の左義長の歳徳神を祭るため、各地区で宮蔵(歳徳神宮)の前で叩いた太鼓が鑿と呼ばれるもので、明治以降、2月11日の紀元節と11月3日の天長節に各町内独自に行っていた。

昭和35年以降、松江祭の行われる11月始めに3年に一回の割合で交替で参加することになった。趣向を凝らした各町内の鑿宮行列と、大地を揺るがす響きは秋の松江の代表的風物詩である。



鑿行列

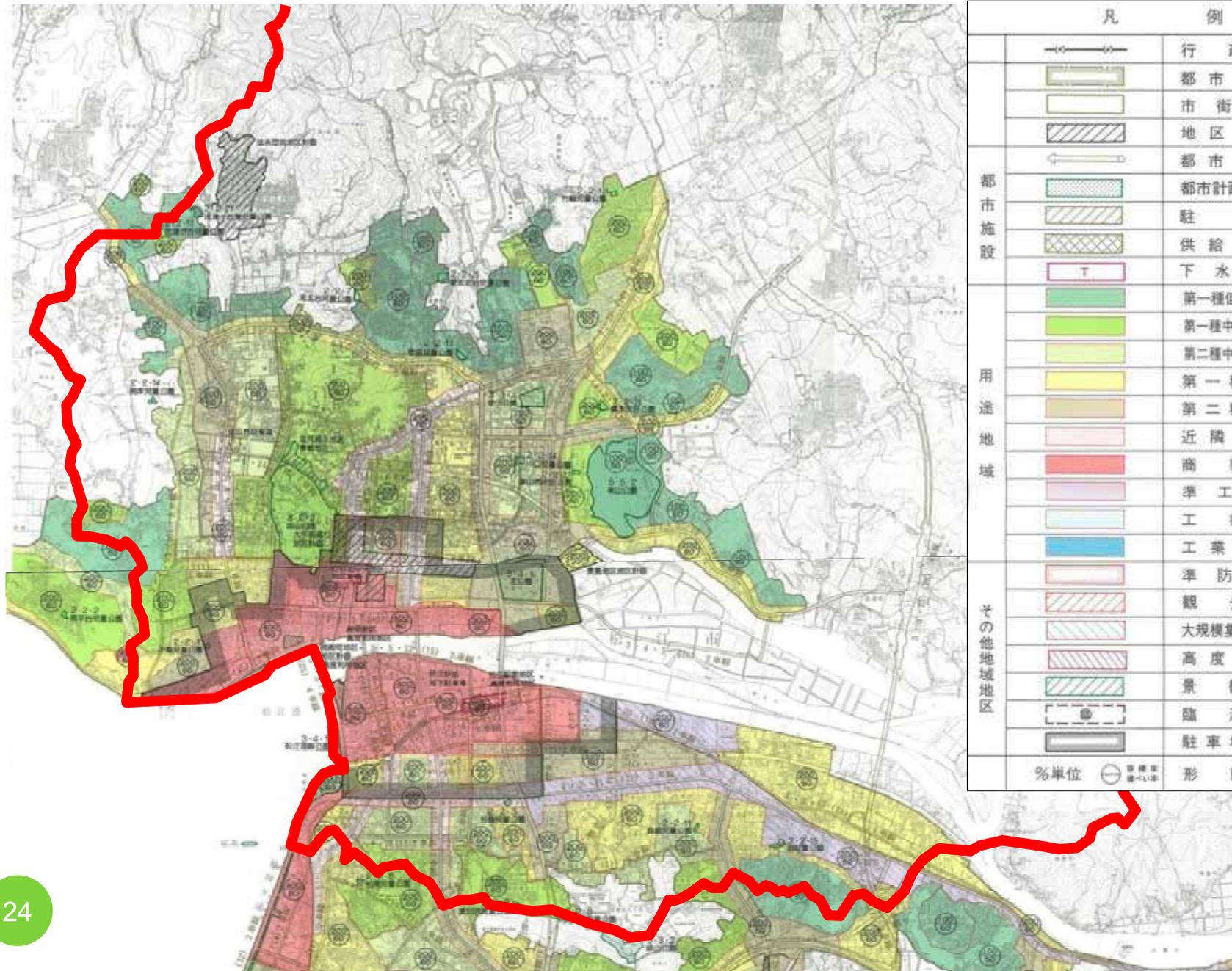
土地利用(1)



凡 例		
五 地 域	表示	記号
都市地域	市街化区域	[Red solid box]
	市街化調整区域	[Red hatched box]
	市街化調整区域(土砂災害防止区域)	[Red hatched box]
	市街化調整区域(土砂災害防止区域)	[Red hatched box]
農業地域	農用地区域	[Yellow solid box]
		[Yellow solid box]
森林地域	国有林	[Green solid box]
	池田森林計画対象国有林	[Green hatched box]
	保安林	[Green hatched box]
		[Green hatched box]
自然公園地域	特別地域	[Blue hatched box]
	特別保護地区	[Blue hatched box]
		[Blue hatched box]
自然保全地域	特別地区	[Blue hatched box]
		[Blue hatched box]

— : 宍道湖東域圏域界
- - - : 松江市街地治水計画検討流域界

土地利用(2)

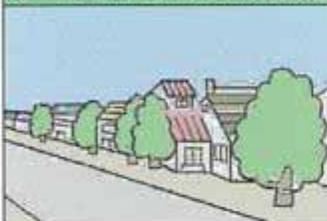


凡 例	
	行政区域
	都市計画区域
	市街化区域
	地区計画区域
	都市計画道路
	都市計画公園緑地基固
	駐 車 場
	供給処理施設
	下水処理場
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域
	準防火地域
	観光地区
	大規模集客施設制限地区
	高度利用地区
	景観地区
	臨港地区
	駐車場整備地区
%単位	形態規制

土地利用(3)

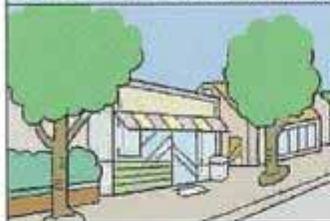
12種類の用途地域のイメージ

第一種低層住居専用地域



低層住宅のための地域です。小規模なお店や事務所をかねた住宅や、小中学校などが建てられます。

第二種低層住居専用地域



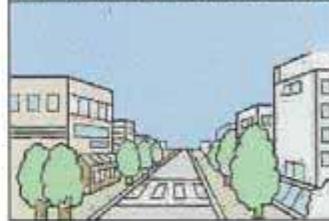
主に低層住宅のための地域です。小中学校などのほか、150mまでの一定のお店などがたてられます。

第一種中高層住居専用地域



中高層住宅のための地域です。病院、大学、500mまでの一定のお店などが建てられます。

第二種中高層住居専用地域



主に中高層住宅のための地域です。病院、大学のほか、1,500mまでの一定のお店や事務所など必要な利便施設が建てられます。

第一種住居地域



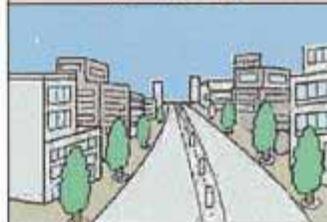
住宅の環境を守るための地域です。3,000mまでの店舗、事務所、ホテルなどは建てられます。

第二種住居地域



主に住居の環境を守るための地域です。店舗、事務所、ホテル、パチンコ屋、カラオケボックスなどは建てられません。

準住居地域



道路の沿道において、自動車関連施設などの立地と、これと調和した住居の環境を保護する為の地域です。

近隣商業地域



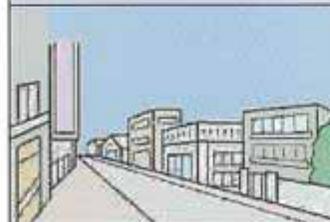
まわりの住民が日用品の買物などをするための地域です。住宅や店舗のほかに小規模の工場も建てられます。

商業地域



銀行、映画館、飲食店、百貨店などが集まる地域です。住宅や小規模の工場も建てられます。

準工業地域



主に軽工業の工場やサービス施設などが立地する地域です。危険性、環境悪化が大きい工場のほかはほとんど建てられます。

工業地域



どんな工場でも建てられる地域です。住宅やお店は建てられますが、学校、病院、ホテルなどは建てられません。

工業専用地域



工場のための地域です。どんな工場でも建てられますが、住宅、お店、学校、病院、ホテルなどは建てられません。

水質(1) 松江堀川浄化事業

松江堀川浄化事業の概要

- 松江堀川では、昭和40年代より関係機関が水質浄化のための取組みを実施。

昭和47～51年度：第1期浄化用水導入事業

昭和47年度～：底泥浚渫(島根県)

平成2年度～：ふるさとの川モデル事業

平成5年度～：第2期浄化用水導入事業

平成6年：清流ルネッサンス21策定

平成13年：清流ルネッサンス 策定



[第1期浄化用水導入事業]

- 宍道湖畔に末次ポンプ場を建設し、松江堀川に $3.6\text{m}^3/\text{s}$ を導水。
- しかし、北田川などの排水はかんがい用水に利用されているため、塩分を含んだ宍道湖の水は塩害防止用の仮締切堤で循環しないようにされていた。

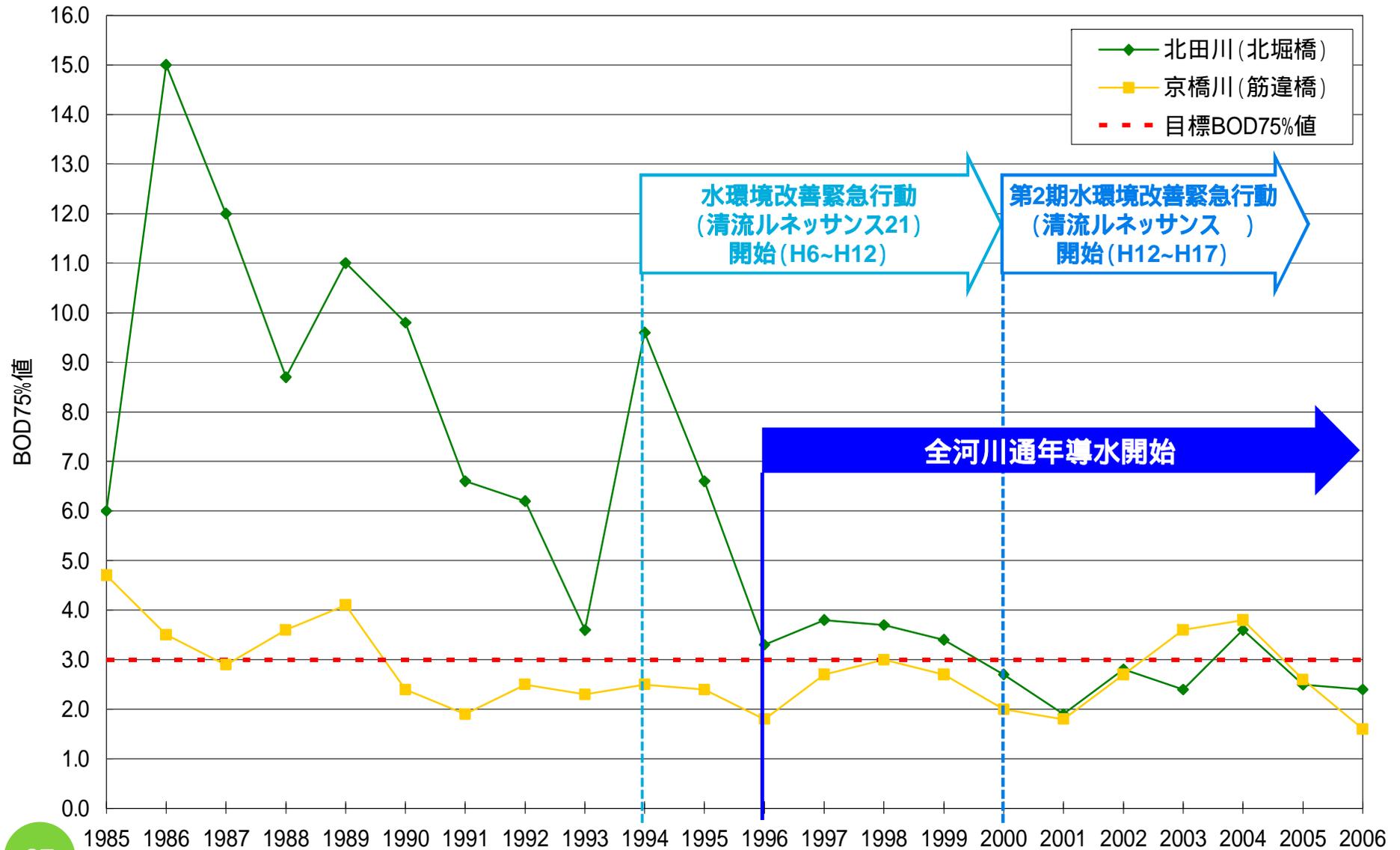
[第2期浄化用水導入事業]

- 農業用水を常時確保するための堰を新設するとともに仮締切堰を撤去し、浄化用水の通年導水化を図った。



水質(2)

松江堀川水質の推移



河川空間の利用状況



北田川

松江堀川遊覧船(北田川)

遊覧船を浮かべ、まちぐるみで地元小学生の卒業祝いイベントを開催
(天神川:H20)



出典:山陰中央新報



松江水燈路

9月から10月にかけて、堀川沿いに市民等による手作りの灯籠が並び、辺り一帯が幻想的な光に包まれる。期間中は遊覧船の夜間運行も行われ、ライトアップされた松江城や塩見縄手などを楽しむことができる。

カラコロ広場(京橋川)



ビオトープ池(北田川)



↓母衣小学校

北田川



京橋川

北公園(京橋川)

